

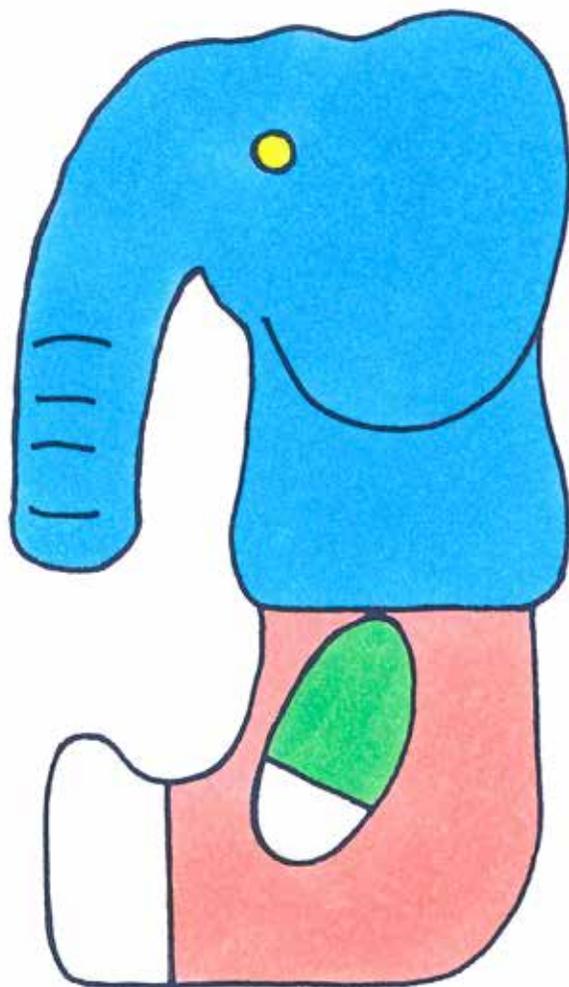
成育だより

NCCHD
News Letter
2025 Spring

Vol.42

National Center for Child Health and Development

<https://www.ncchd.go.jp>



特集
こども
もの
心

女性の健康総合センター(ICWH)について / これって月経困難症!?
研究所 / 臨床研究センター / 専門職のご紹介(チャイルド・ライフ・スペシャリスト/専門看護師)
DEIを知ろう / ファシリテイドッグ・マサ / 新任の先生 / Information

 **春はあけぼの？**

皆さんは、春に対してどのようなイメージを持たれていますか？ 桜、卒業、入学、新学期、新社会人、転居、暖かい、花粉症などさまざまだと思います。子どもたちにとっては、春は別れと出会いを伴って環境が大きく変化する1年のうちで最もドラマティックな時期です。期待に胸を膨らませてワクワク・ドキドキしている子、これまでの生活がようやく終わると胸をなでおろす子、友人との別れを悲しむ子、新生活への不安がいつぱいの子もいるでしょう。

このような環境の変化は、子どもたちの中に高揚感、不安、緊張などを生みます。これらが高いほど、これから始まる新しい生活に対してこころも体もアクセルを強く踏み込みこんで発進しがちです。4月末からはゴールデンウィークが始まり、いったんお休みをとることができますが、この休みの前後で生活リズムが崩れてしまい、こころと体のバランスが崩れてしまう子どもがいます。これが、いわゆる5月病です。朝起きれない、気分が乗らずやる気がでない、学校に行けない、お腹が痛い、頭が痛いなど……。いろいろな症状がでできます。こころと体はとも強く繋がっていて、一方の調子が悪いともう片方の調子も崩れてしまうことがあります。子どもたちは、やりたくない、さぼりたいと思っているわけでは決してなく、行動したくても体がついていけないことが多いと思います。

新しい生活のスタートがうまく切れない、人間関係になじめない、想像していたものと違ってがっかりする、環境に合わせられないなどはストレスになり、イライラして落ち着きがなくなったり、元気がでなくて悲しい気持ちが続いたりします。

こういった場合には、無理に学校に行かせたり行事に参加させたりするのではなく、いったん立ち止まることも大切です。まずは体調を整えるために、食生活や睡眠などを見なおして、規則正しい生活を送ることを心掛けましょう。子どものストレスやヘルプサインを見逃さないように、普段から家族でしっかりコミュニケーションをとることも重要です。

良いスタートを切ることができればもちろん良いですが、そうでなくても焦らず、じっくりとお子さんに向き合って、みんなで一緒に解決策を考えていきましょう。

Makio Oka
岡 牧郎

小児内科系専門診療部
こころの診療科 診療部長

好きな食べ物は
カレー
チョコレート



おしえて！先生！

Q1.

子どもが爪をかむのですが、
ストレスが溜まっているのでしょうか？
注意した方がいいですか？

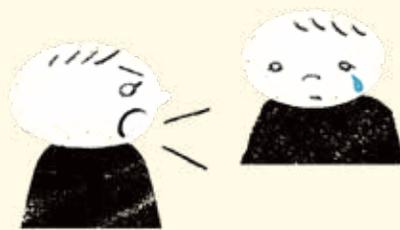


A1. 爪かみは5～6歳ごろから増え始めます。小学校高学年から中学生では3～4人に1人の頻度で見られ、その後は減っていきます。精神的ストレスが原因の場合もありますが、多くは病的なものではない「癖」です。かむ行為は幼稚で見た目も悪いため気になるといって、強く叱ったり、しつこく注意したりすることは控えて下さい。親子関係の悪化などから逆効果になることがあります。指摘する時は「指」と注意を促す程度で良く、我慢できたら褒めてあげましょう。趣味やスポーツなど夢中になるものができる、成長とともに爪かみが恥ずかしいという気持ちが芽生えたりすることで自分で我慢するようになり、自然と収まります。かまなくなると、爪も元どおりきれいになります。

Q2.

子どもが、保育園で同級生に強く当たってしまっているようです。家ではそのような様子はなく、保育士さんからは家でそのことを話さないでくださいと言われていました。親としては、家でどう子どもを見守ればいいでしょうか？話を聴いたりしなくていいですか？

A2. 保育士さんの指示どおり、家ではその件について直接言及することは控えましょう。ただし、普通の生活でしているように、園の様子やお友達の話を子どもから聞くことは大切です。理由が見つかったり、話の流れでお友達との関わり方についてアドバイスができたりすることがあります。また、家庭の中でも親や兄弟から強く当たられているために、園で同じようなことをしているかもしれません。ゲームや動画視聴が影響しているかもしれません。その場合は、環境を改善する必要があります。



こころの診療科について

子どもの心の問題や発達の問題、親子関係、産後6ヶ月以内の女性のメンタルヘルス相談などに対応しています。患者さんや家族に寄り添い、毎日を少し楽に過ごせる方法を一緒に考えます。

国立成育医療研究センター こころの診療科

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/naika/kokoro.html>



1. こころと体の不調のサイン

こころの不調

気分が落ち込みやすい
やる気がない、
何をするにしても面倒くさがる
不安や緊張が強い
イライラしやすい
急に泣き出したりする
集中が続かない、すぐ他のものに
気がいってしまう など

体の不調

疲れやすい
起きるのがつらい
寝付きが悪い、睡眠が浅い
食欲がない、
または食べ過ぎる
頭が痛い、おなかが痛い
めまいがする など

2. ストレス対処法の一例

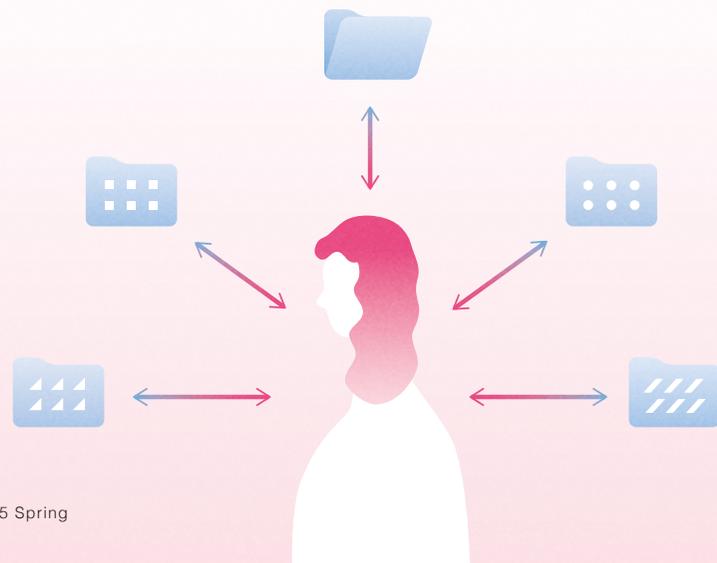
- 規則正しい生活を送る
- 睡眠、食事をきちんととって、適度に運動する
- ストレスの原因・対象となるものを理解して対処する
(環境を改善する、距離を置くなど)
- 家族や身近な人に相談する(思いを言葉や文章で表す)
アドバイスをもらう
- 気分がリフレッシュできることに取り組む
(例:趣味やスポーツをする、家族で旅行に出かける、美味しいものを食べるなど)
- ストレスに対する考え方を変える
(ポジティブに苦手な分野を伸びしろと考えたり、厳しい意見や批判を期待の言葉だと受け止めたりするなど。ピンチはチャンス!)

データセンター

データセンターと聞くと、どんなものを想像しますか?分かりやすく説明すると、大きなコンピューターが何台もあって、いろんな情報を蓄え、その情報をやりとりするための施設です。今、女性に関するさまざまなデータはいろいろな場所に散らばっていて、さらにデータの集め方も違っているため、研究や企業活動などに使いづらい状況があります。

女性の健康総合センターに作るデータセンターは、幼少期、思春期、性成熟期、更年期、老年期と、さまざまなライフステージごとの女性のデータを、提携する病院や自治体、企業、研究グループや政府統計などから集めます。そうして集めたデータに対して、表記の統一を行ったり、不完全な部分を補ったり、必要のない部分を削除したりといった「クリーニング」という作業を行います。さらに、データを分かりやすく「整理」し、「セキュリティ対策」や、データを必要とする外部の方々に向けて「データを切り出して提供」といった作業を、専門的な知識やスキルを持った職員が対応します。

これまで使いづかったデータを利活用されやすいものに変えることで、女性の健康に関する研究やプロジェクトが進み、新しい発見や成果が生み出されることを目指しています。データセンターは、女性の健康に関するデータを使って、研究促進、研究開発を支援をすることで、すべての女性が健やかに過ごせる未来を作っていきたいと考えています。



女性の健康総合センター (ICWH) について

国立成育医療研究センターは2024年10月、新たに「女性の健康総合センター(ICWH)」を設立しました。女性と男性の身体の違いから病気のかかりやすさ、症状の違いなどを見ていく「性差医療」を推進し、思春期、性成熟期、更年期など、ライフステージごとにさまざまな課題を抱える「女性の健康」を支えていくための組織です。そのために、ICWHではさまざまな取り組みを行っています。

1

データセンターの構築

2

情報収集・発信と人材育成

4

女性のライフコースを踏まえた研究の推進

3

女性のからだところのケア

5

女性に特化した医療の提供

なんだかモヤモヤ…これって月経困難症!?

「生理が無ければ楽なのに」と思うことはありませんか？生理中や生理の直前に起こるお腹の痛み(いわゆる生理痛)、腰痛、お腹の張り、吐き気、頭痛、疲労感、脱力感、食欲不振、イライラ、下痢、憂うつなどの症状がある場合は、月経困難症と呼ばれます。月経のある女性に高頻度に見られる症状で、決して珍しいことではありません。

月経困難症は子宮内膜症や子宮筋腫など原因となる病気がある「器質性月経困難症」と、原因となる病気がなく子宮の収縮などによって起こる「機能的月経困難症」の2種類に分けられます。

治療には、子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫があればGnRHアナログとよばれる女性ホルモンの分泌を抑える薬が使われることがあります。また、その他の治療法として、鎮痛剤(痛み止め)、LEP(女性ホルモンが入った飲み薬)、ミレーナ(子宮内に入れて使う女性ホルモンが入った装置)、黄体ホルモン剤の飲み薬、漢方薬などを状態に合わせて使用します。

月経困難症があると、パフォーマンスの低下、学校や仕事を休む、メンタルの不調、人間関係の悪化を引き起こしてしまうことがあります。また、子宮内膜症が隠れていることもあり、将来的に不妊症の原因や、年齢や大きさによっては卵巣がんのリスクが高まる可能性がありますという報告もあります。さらに、月経困難症を含む月経随伴症による経済損失は日本全体で年間約0.6兆円ともいわれており、その影響も無視できません。

これまでご紹介した通り、月経困難症にはさまざまな治療法があり、治療によって症状を軽くすることができます。生活の質向上のためにも、気になる症状があれば我慢せずに産婦人科などの医療機関を受診することをおすすめします。実際に10代から閉経前まで幅広く、月経困難症の患者さんが通院しているのがあります。

これまでもご紹介した通り、月経困難症にはさまざまな治療法があり、治療によって症状を軽くすることができます。生活の質向上のためにも、気になる症状があれば我慢せずに産婦人科などの医療機関を受診することをおすすめします。実際に10代から閉経前まで幅広く、月経困難症の患者さんが通院しているのがあります。

これまでもご紹介した通り、月経困難症にはさまざまな治療法があり、治療によって症状を軽くすることができます。生活の質向上のためにも、気になる症状があれば我慢せずに産婦人科などの医療機関を受診することをおすすめします。実際に10代から閉経前まで幅広く、月経困難症の患者さんが通院しているのがあります。



女性外科 / 婦人科のご案内

良性婦人科疾患や月経困難症などの女性特有の疾患や、原因不明の体調不良が続く方の診療を行います。女性外科に関しましては、現在開設に向け準備を進めているところです。外科的手技を要しない保存的治療が主体となります。

—対象疾患—

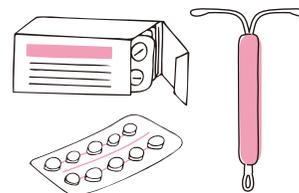
子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう胞などの良性疾患、月経困難症・月経前症候群(PMS)、更年期障害、慢性疾患を有する思春期患者さんのトランジション(移行期医療)における月経関連症状(無月経、稀発月経あるいは月経困難症など)

対症療法



- ・鎮痛薬(NSAIDs)
- ・鎮痙薬
- ・漢方薬など

ホルモン療法



- ・LEP
- ・黄体ホルモン錠(ジェノゲスト)
- ・子宮内黄体ホルモン放出システム(IUS、ミレーナ)
- ・GnRH アナログ療法など

好きなおやつは和菓子



Hiromi Komiya
小宮 ひろみ

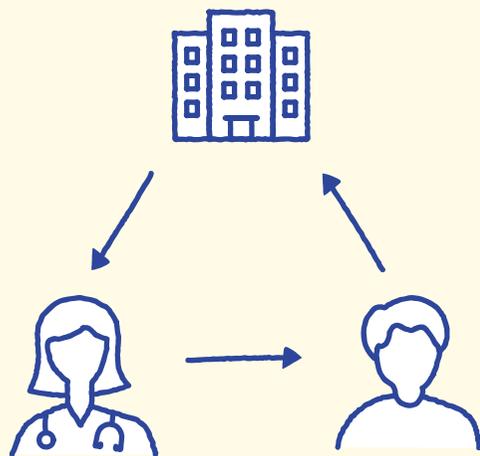
女性の健康総合センター センター長
専門分野: 女性ヘルスケア・性差医療

臨床研究センター

臨床研究センターは、成育医療研究センターやその他の病院などで行われる臨床研究に関する仕事を担当しています。

病気を治すためには、よい薬や治療法が必要ですが、それを使う前にしっかりと試して確かめることが大切です。医師や研究者が協力して、新しい薬や治療法を受けたりした人の体の変化を調べ、そのデータを集めて分析し、本当に役に立つかどうかを確認するのが臨床研究です。臨床研究センターでは、患者さんが安心して研究に参加できるように、あらかじめ決められたルールを守って安全に研究を進める仕事も行っています。

臨床研究が進むことで、未来の医療がもっと良くなり、多くの人々が健康に暮らせるようになります。臨床研究センターはそのお手伝いをしています。



たくさんの声を
読み解いていく
ってこと？



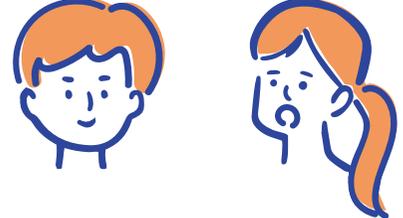
もっと
知りたいかも！

身体と心の関係って
わからないことが多いよね。



病気や心の健康について
予防や対策を考えていく学問
なんだって。

疫学って？



とても大切な
研究だね。

に合った形でサポートしたり、その意見が生かされるように一緒に考える姿勢が大切だと思います。新学期が始まり、子ども達の環境も大きく変わる今だからこそ、じっくりお子さんと向き合い、どんな考えを持っているのか話してみたいかがでしょうか？

社会医学研究部ではこれからも、日本で暮らす皆さんのウェルビーイングを目指して「身体と心の健康」について研究を進めていきます。

大人は、子どもの声をただ受け止めるだけではなく、子どもが気持ちや考えなどを伝えやすいようにその子どもに合った形でサポートしたり、その意見が生かされるように一緒に考える姿勢が大切だと思います。新学期が始まり、子ども達の環境も大きく変わる今だからこそ、じっくりお子さんと向き合い、どんな考えを持っているのか話してみたいかがでしょうか？

この研究は、小学5年生と中学2年生を対象に行われました。新型コロナウイルスのパンデミックで起こった生活の変化について、家庭や学校で自分の考えを聞いてもらっているかどうか、その聞いてもらった考えや気持ちがちんと取り入れられていると感じるかどうかを調べました。すると、「学校の先生と保護者の両方に声を聞いてもらえた子ども」は、そうでなかった子どもと比べると、生活の質(QOL)が高い割合の子どもが約5倍多いことが分かりました。

行っている研究は、「新型コロナウイルスの流行が子どもに与える影響」「高度不妊治療を受ける女性が感じるストレスについて」「国が行っている制度の効果に関する調査」など、さまざまなテーマがありますが、最近、多くのニュースで取り上げられたのは「大人が子どもの声を積極的に聴き、取り入れようとする」ことで子どもの生活の質がアップする」という研究です。

社会医学研究部は、主に「疫学」を行う研究部です。疫学とは、「病気や心の健康に関わる問題が、どのように広がるのかを調べ、予防や対策を考える学問」のこと。私たちは、子どもや大人の「身体と心の健康」について、私たちの周りの物事がどんな影響を与えているのかを研究しています。



Hiroko Oe
小江 寛子

小児看護専門看護師
好きな食べ物: 餃子

専門看護師(CNS)は「がん看護」や「感染症看護」など特定分野において専門的な知識と技術を持ち、専門教育と認定審査を経て資格を取得した看護師です。小児看護専門看護師は、あらゆる健康状態の子どもとその家族を支え、成長や発達に寄り添った看護を行う役割を担っています。

CNSは社会や医療環境の中で患者さんの病気からの回復を支援し、関係各所と連携しています。「その子・その人らしく」を大切にしつつ、皆さんの成長と健康をサポートしています。

当センターでは、昨年より研究の一環として5歳児健診に取り組みしており、私は健診内の生活相談を担当しています。

5歳児健診では子どもの成長・発達を診るだけでなく、社会的な発達の状況を把握し、必要に応じて支援に繋げ、適切な生活習慣を身に付けてもらうことを目指しています。

例えば近年、テレビや動画の視聴時間(スクリーンタイム)の長さが問題となっています。米国小児科学会では1日

2時間以内を推奨していますが、現実的に厳しいと感じる方も多いかもしれません。生活相談では、家庭でできそうな視聴時間の管理についてご家族と一緒に考えています。

そのほかにもお子さんの性格や日常生活における心配事などについてもご相談をお受けしており、エビデンスに基づいた回答を心掛けています。

「相談してよかった」と思ってもらえるよう、今後も相談活動を充実させていきたいと考えています。



左から 伊藤 麻衣、高橋 有希、阿部 啓子、米道 宏子

チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)は、病院で子どもが感じる「いや!」「こわい!」「いたい!」「不安」といった気持ちに寄り添い、治療や検査といった医療体験を自分なりに乗り越えられるようにサポートを行う職種です。

私たちは、子どものこころや発達、ストレスへの対処、さらに医療についての知識をもった専門職として、医療チームの一員として働いています。

例えば、年齢や発達に合わせた言葉かけや方法を用いて、病気や治療について子どもたちが自分なりに理解できるように促したり、処置や検査・手術の場面でのこころの準備や心理的なサポートを行ったり、医療について子ども達が抱くいろいろな気持ちを発散できるように遊びを提供したりといったサポートを行います。また、家族支援やきょうだいの支援に加え、喪失を体験する子どもたちやご家族へのサポートも行います。

Keiko Abe
阿部 啓子

チャイルドライフサービス室
認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト
好きな食べ物: 桜餅

写真で持っているお人形は、お子さんに分かりやすく説明するためのお人形です。体の中の仕組みや、治療や検査に使う道具などが組み込まれています。

当センターには、4人のCLSが毎日子どもたちのために活動しています。一日の流れはさまざまですが、患者さんに直接関わる支援の他に、多職種とのカンファレンスや委員会にも参加します。

CLSは医療行為をしないため、子どもが抱えるさまざまな困難に対して一緒に考え、後ろから支える存在です。子どもたちが持つ本来の強さや頑張る力を発揮する瞬間に立ち会えるときに、CLSという仕事の魅力ややりがいを感じます。

DEIって、なんで必要なの？

より良い社会につながる

どんな違いを持つ人も尊重され、
自分らしく安心して暮らせる社会になります。

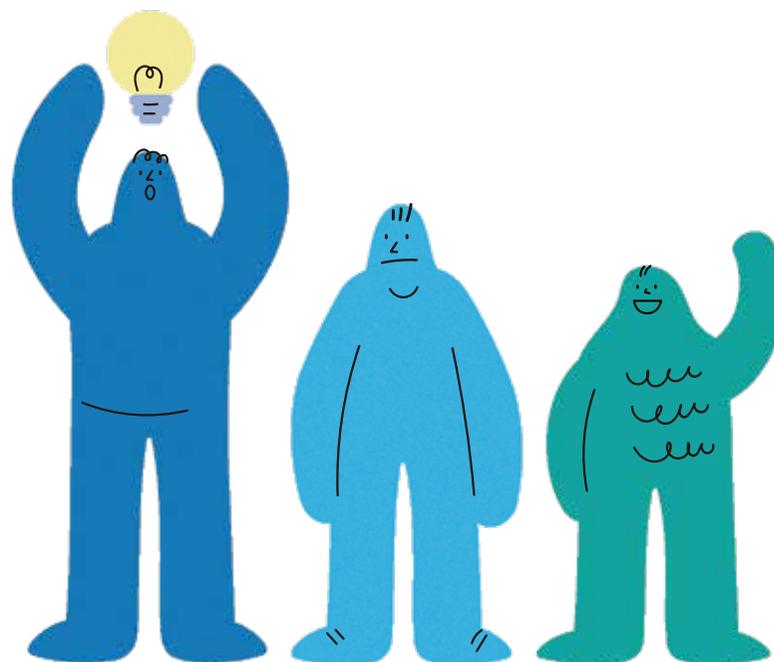
イノベーションが生まれやすくなる

いろいろな考え方や経験を持つ人が集まることで、
「違い」を力にし、新しいアイデアや工夫が
生まれやすくなります。

組織やチームが成長する

多様な人がいることで、
柔軟な対応や発想ができる組織になります。

DEI推進のメリット



ダイバーシティ・ エクイティ・ インクルージョン (DEI)を知ろう



最近、職場やニュースなどで良く聞くようになった言葉
「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(DEI)」。
簡単に言うと、「多様な人々を受け入れ、それぞれが活躍できる
環境を作ること」なのですが…、なかなかピンときませんよね。
ここでは、DEIが何なのか？
どんな社会になるのかをお伝えします。

ダイバーシティとは「多様性」という意味です。年齢、性別、国籍、障がいの有無、価値観など、人はそれぞれ違いを持っています。こうした違いを排除せず、お互いに理解し、生かし合うことで、みんなが安心して自分らしく過ごせる社会を目指す考え方です。職場だけでなく、学校や地域など、あらゆる場面で大切にされます。

ダイバーシティ (Diversity)とは？

エクイティとは「公平性」という意味です。みんなが平等にチャンスを持てるよう、それぞれの状況や必要としていることに合わせて、配慮や支援を行います。たとえば、障がいのある人が他の人と同じように学び、働くことができるように、環境を整えたりサポートしたりすることがエクイティです。一律の対応ではなく、「違い」に注目して支援していきます。

エクイティ (Equity)とは？

インクルージョンとは、「受け入れること」や「包み込むこと」を意味します。年齢、性別、国籍、障がいの有無など、さまざまな違いを持つ人が同じように大切にされ、安心して自分らしくいられる環境を作ることです。ただ多様な人が集まるだけではなく、みんなが「ここに居てもいい」と感じられることが、インクルージョンの目指す姿です。

インクルージョン (Inclusion)とは？

国立成育医療研究センターの取り組み



成育ダイバーシティ冊子
(2025年制作)

DEIに向けた取り組みについて詳細はこちら



令和6年度文部科学省
「ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ（女性リーダー育成型）」
に選定されました。

- ① さまざまなキャリアや背景をもつ研究者に対する研究費助成制度
- ② 若手研究者に対する、キャリア相談機会の提供
- ③ 女性研究者の活躍を後押しするための研修会やリーダーシップ研修
- ④ 研究機会の確保
(在宅勤務の実施、ベビーシッター・学童費用補助など)
- ⑤ DEIに関するセンター内外への情報発信

新任の先生



国立成育医療研究センター
女性総合診療センター 女性精神科 診療部長

Chika Kubota
久保田 智香

好きな食べ物: とろろ

はじめまして。4月より女性総合診療センターに着任いたしました、精神科医の久保田です。名古屋大学で周産期メンタルヘルスの分野に携わり始め、その後の7年間は国立精神・神経医療研究センター病院の精神科で勤務してまいりました。

心の不調はどなたにも起こりうるものですが、どんなときもその人らしく過ごしていけるよう、安心してお話いただけるあたたかい場所をつくっていきたく考えています。

また、これまでに関わってきたさまざまな機関とも連携し、ナショナルセンターの一員として、診療・研究・教育に力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



国立成育医療研究センター
副院長 遺伝診療センター長

Kenji Kurosawa
黒澤 健司

好きな食べ物: 餃子

2025年4月1日より副院長を拝命いたしました黒澤健司です。遺伝診療センター長も兼任しております。これからは図書館、栄養管理、診療録管理などセンターとしての基盤機能の統括と機能向上を目指した改革に取り組んでいきます。微力ではありますが全力を尽くしてまいりたいと思います。

4月には、多くの若い職員が仲間に加わり、当センターも活気にあふれています。私自身も小児科医としての一步を踏み出した時を思い出しています。無限の可能性を持つ子どもの命を預かる責任の重みを感じると同時に、その可能性に自分自身を重ねる喜びを感じたものです。その思いは今も変わりません。これからも思いを新たにして、取り組む所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

とっても賢くて、みんなの人気者 マサの1日



病棟では、患者さんとお散歩したり、遊んだりして一緒に過ごします。



患者さんと一緒に眠るマサ。みんなにとって安心できる存在です。



リハビリも、一緒にがんばります。

- ハンドラーとお散歩
- 9:30 出勤
朝のごあいさつから始まります。
- お仕事 (1時間)
- 12:00 お昼休み
- お仕事 (1時間)
- 休憩 (1時間)
- お仕事 (1時間)
- 17:15 退勤
- ハンドラーとお散歩

好きな食べ物はお刺身

好きな食べ物はりんご



マサ

犬種:
ラブラドル・レトリバー
誕生日:
2019年3月7日生まれ♂

ファシリテイドッグ・マサ

皆さま、こんにちは。ファシリテイドッグのマサとハンドラーの権守礼美です。

ファシリテイドッグとは、病院や医療施設で患者さんをサポートするために訓練された犬のことです。日本では、2010年に認定NPO法人シャイン・オン・キッズが導入したのが始まりで、現在は国内4つの小児医療施設で専属チームが活動しています。

看護師経験を持ち専門的なトレーニングを受けたハンドラーとともに、

ファシリテイドッグは医療チームの一員として患者さんをサポートします。例えば、採血や点滴ルートの確保時に寄り添い、患者さんが安心して治療を受けられるよう手助けしています。

マサが当センターに来たのは2021年7月。温かいご支援のおかげで活動を継続し、今年で5年目を

迎えます。また、3月7日には6歳になりました。おらかな性格で、実はひょうきんな一面もあります。

マサはハンドラーと共に、平日5日間勤務しており、動物福祉との両立を第一に考えながら活動しています。患者さんのサポートは1日計3時間程度で、マサもリラクゼーションながら活動できるように、ハンドラーがマネジメントしています。

Ayami Gonnokami
権守 礼美

ハンドラー・小児看護専門看護師

小児がんセンター



小児がん交流フェスタ2025を開催しました

3月8日(土)に小児がん相談支援センターによるイベント「小児がん交流フェスタ2025」を5年ぶりに開催しました。小児がん免疫診断科・出口隆生医師による「小児がん中央診断」の講演会と、ファシリテッド・マサとの交流会に、約100名の方にご参加いただきました。また小児がんに関連した16の支援団体にもご協力いただき、参加者にはスタンプラリー形式で団体を回って交流していただきました。会場内では絵本の展示「うちゅうとしょかん」も開催され、集まった妖精のイラストが会場を明るく彩ってくれました。

教育研修センター



大阪・関西万博メンタルヘルスセッション開催のお知らせ

6月21日、大阪・関西万博で「2050年におけるメンタルヘルスの未来像」をテーマとしたシンポジウムを開催します。世界各国から研究者を迎え、教育研修センター・山田夏彦医師がモデレーターを務めます。国境や人種を越え誰一人取り残さない未来を目指し、これまで共に病と闘ってくださった患者さん一人一人への敬意を胸に、議論を深めてまいります。詳細はQRコードより公式HPをご覧ください。多くの方のご参加をお待ちしております。

大阪・関西万博公式HP
メンタルヘルスセッションの詳細はこちら



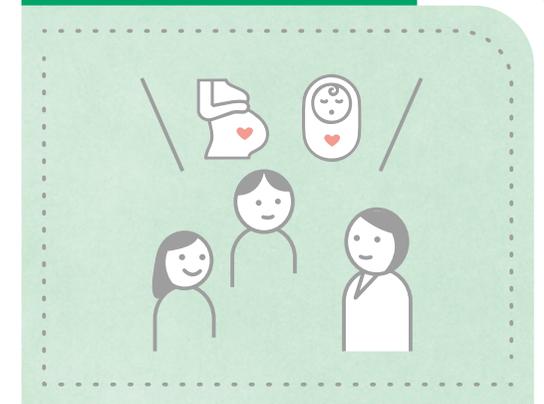
NICU



「かぞく写真撮影会」で心温まるひととき

当センターNICUで初めて「かぞく写真撮影会」を開催し、16組の家族にご参加いただきました。NICU入院中は家族で記念写真を撮る機会が限られがちですが、今回の撮影会ではプロのカメラマン・安田一貴氏のご協力のもと、スタッフも一丸となって撮影をサポートしました。赤ちゃんご家族の素敵な笑顔に、スタッフ一同も元気づけられる温かな時間となりました。参加されたご家族からは「特別な瞬間を記念に残せて嬉しい」「初めての家族写真が撮れて感動した」といった喜びの声をいただき、次回開催を待ち望む声も寄せられました。

プレコンセプションケアセンター



「TOKYOプレコンゼミ」の登録医療機関となりました

東京都が主催する「TOKYOプレコンゼミ」を受講された方を対象に、当センターで検査、相談が受けられるようになりました。基本プランに加えて、将来の妊娠に向けて健康状態やリスクを確認できる「プレコントータルケア」プランもご用意しています。このプランには、必要な検査だけでなく、情報提供や各個人に合わせたカウンセリングも含まれています。妊娠をすぐに考えていない方も対象となります。より多くの女性や男性が、妊娠や出産について正しい知識を身につけ、自分たちの生活や健康と向き合えるよう、私たちは幅広い支援を行ってまいります。

受賞報告



臨床薬理専門医アワード 受賞

国立成育医療研究センター 教育研修センター / 感染症科 庄司 健介

日本臨床薬理学会より臨床薬理専門医アワードを受賞しました。小児患者さんへの抗菌薬や抗ウイルス薬の薬物動態(薬が体に入ってから出ていくまでの一連の流れのこと)に関する研究が評価されたものです。今後も子どもたちに安全で有効な薬物治療を届けられるよう努めてまいります。

受賞報告



第45回小児腎不全学会優秀演題賞 受賞

国立成育医療研究センター

腎臓・リウマチ・膠原病科 西 健太郎、岡田 聡司

第45回小児腎不全学会学術集会において、今回、西が「血液浄化・急性腎不全」部門、岡田が「腎移植」部門で「優秀演題賞」を受賞しました。研究成果が同じ病気で悩む患者さんやご家族の希望につながることを願っております。今後も小児腎不全の診療と研究に努め、より良い医療の提供をチームで目指してまいります。

表紙の絵について

当センターでは、さまざまな個性を持った方々との共生を目指して、表紙イラストに障がいのあるアーティストのイラストを採用しています。思わずクスッと笑ってしまう作品、目を見張るような作品など、魅力あふれる作品をご紹介します。

2025春号は、エイブルアート・カンパニー所属Keiさんの作品です。

子どもが自分じゃない何かになることに憧れて、ゾウのかぶりものをかぶってゾウになりきることで憧れる気持ちを満たしているところです。

描いた人：Kei

1985年生まれ、広島県在住



アイノカタチ基金

ご寄付について

子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療養環境の改善のためにご寄付をいただくとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。



<https://www.ncchd.go.jp/donation/>



国立成育医療研究センター お問い合わせ

医療関係者の方

医療連携室

直通 03-5494-5486 (月～金8:30-16:30)

救急センター

代表 03-3416-0181 (24h受付)

NICU

母体搬送

PICU

代表 03-5494-7073 (24h受付)

患者さん・ご家族

予約センター

病院 03-5494-7300 (月～金9:00-17:00)

産科 03-5494-8141 (月～金9:00-17:00)



国立研究開発法人

国立成育医療研究センター

National Center for Child Health and Development